大谷翔平君　夢への道しるべ

～日本スポーツにおける若年期海外進出の考察～

2012年11月10日

(株)北海道日本ハムファイターズ
チーム統轄本部

目　次

(1) 大谷選手の夢の確認
-1.大谷君の希望　達成比較
-2.MLBトップまでの道のり

(2) 日本野球と韓国野球、メジャー挑戦の実態
-1.日本野球　メジャー選手一覧
-2.日本人メジャー選手のキャリア一覧
-3.韓国野球　MLB進出状況
-4.韓国人メジャー選手中の高卒⇒メジャー選手の成績
-5.韓国人メジャー選手のキャリア一覧
-6.日本野球　その他のアマチュア⇒MLB挑戦者一覧
-7.日本・韓国野球　メジャーにおける活躍状況まとめ

(3) 日本スポーツにおける競技別海外進出傾向
-1.競技別海外進出傾向の違い
-2.競技別海外進出の傾向+指標
◆各競技レーダーチャート
-3.若年期海外進出が向いている競技
-4.若年期海外進出理由の競技別適性

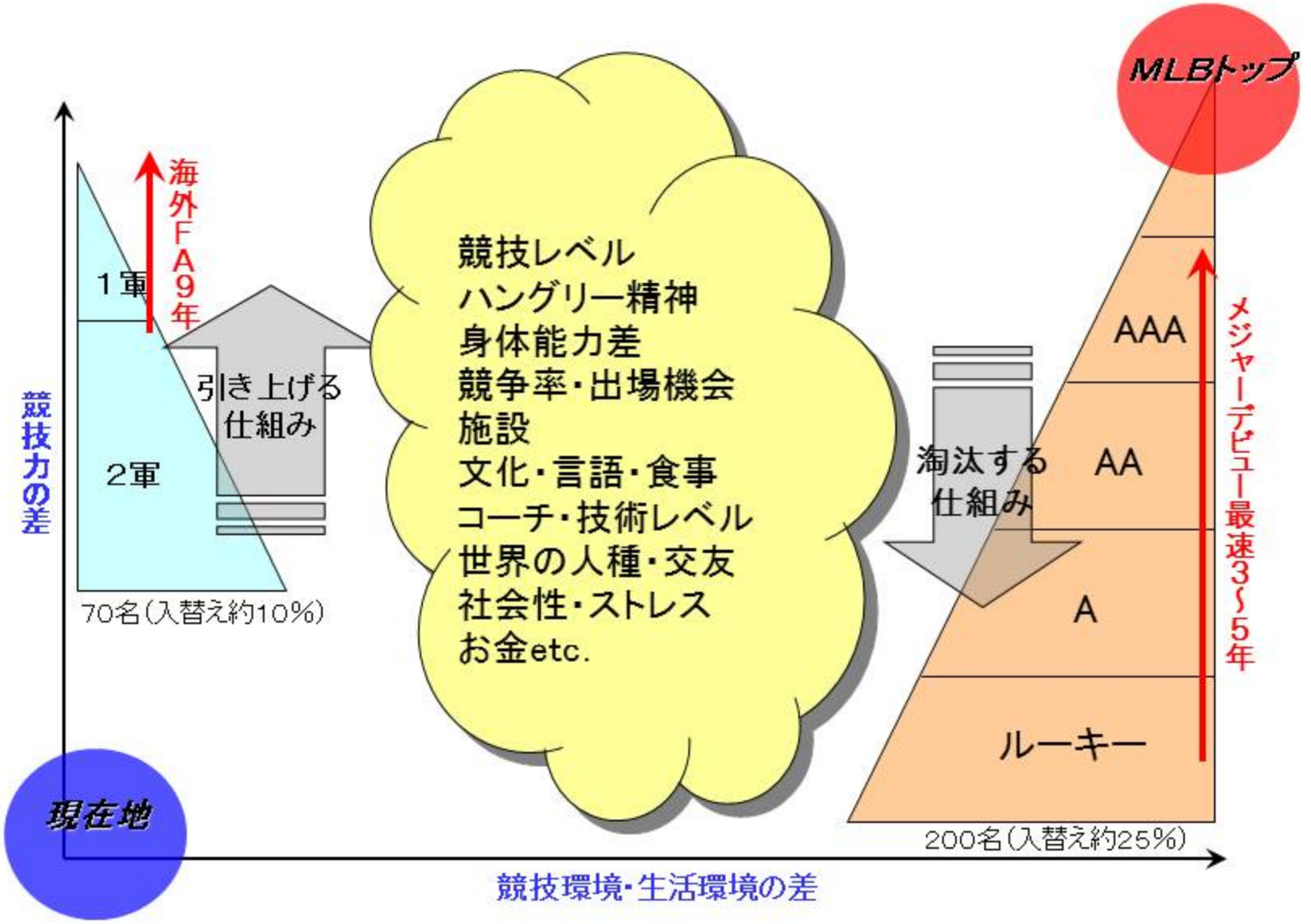
(4) 世界で戦うための日本人選手の手法
-1.日本サッカー　海外移籍組のキャリア一覧
-2.日本人らしい育成項目
-3.『Global(世界の)』でなく、『International(多国間の)』で戦う
◆結論　◆最後に

（1）－1. 大谷君の希望 達成比較

大谷君の希望	NPB	MLB
①MLBトップの実力をつけたい	△ FA取得までの拘束期間	△ メジャー昇格に 一定期間必要、確率低い
②トップで長く活躍したい	△ FA取得までの拘束期間	△ マイナーリーグからの 確率は低い
③パイオニアになりたい	―	△ あえて苦労に挑む パイオニア

＊「アメリカで野球をやりたい」ではない

（1）－2. MLBトップまでの道のり



（2）－1. 日本野球 メジャー選手一覧

別紙1. 参照

全47名中

・MLB実績◎選手　9名

・NPB実績なし選手　5名

◎〇△等、データ集計に用いた各選手の個別評価は、ファイターズ独自の調査と指標に基づくものであり、今回は公開いたしません

（2）－2. 日本人メジャー選手（MLB◎、NPB実績なし）のキャリア一覧

別紙2.　参照

□ MLB活躍「◎」選手9名は皆、即戦力としての実力を既に兼ね備えていた。

⇒MLBで即戦力となる実力をNPBで身につけることが◎の可能性高める。

□ 30歳前後の渡米でも長く活躍できている。

⇒ダルビッシュ有もMLBでの長期活躍に十分な期間を見込める。

□ 「早期渡米」が「トップレベル到達＋長期活躍」にいまのところ結びついていない。

⇒「NPB実績なし」の母数少なく、断定できない（→韓国野球へ）

（2）－3. 韓国野球 MLB進出状況

韓国人選手アメリカ進出状況　1994-2004(11年間)

순번	選手名	学校名	位置	契約球団	契約年度	契約金($)	国内指名
1	박찬호	한양대	★투수	LA다저스	1994	120만	미지명
2	최경환	경희대	외야수	보스턴	1994	5만	미지명
3	최창양	중앙대	★투수	필라델피아	1994	4만	미지명
4	김재영	중앙고	★투수	보스턴	1997	20만	미지명
5	봉중근	신일고	★투수	애틀랜타	1997	120만	미지명
6	서재응	인하대	★투수	뉴욕메츠	1997	135만	96 해태 2차우선
7	서재환	인하대	외야수	뉴욕메츠	1997	10만	96 해태 2차 10-80
8	김선우	고려대	★투수	보스턴	1997	126만	96 OB 2차우선
9	조진호	원광대	★투수	보스턴	1998	85만	96 쌍방울 1차
10	정 석	동국대	★투수	LA다저스	1998	10만	96 삼성 2차 4-29
11	백차승	부산고	★투수	시애틀	1998	129만	미지명
12	김병일	동국대	★투수	피츠버그	1998	40만	미지명
13	송승준	경남고	★투수	보스턴	1999	80만	99 롯데 2차우선
14	최희섭	고려대	내야수	시카고컵스	1999	120만	98 해태 1차
15	김병현	성균관대	★투수	애리조나	1999	225만	97 해태 2차우선
16	오철희	진흥고	외야수	보스턴	1999	75만	미지명
17	권용민	인하대	포수	시카고컵스	1999	120만	97 롯데 2차우선
18	이상훈	주니치	★투수	보스턴	2000	105만	
19	정영진	인하대	내야수	샌디에이고	2000	25만	미지명
20	추신수	부산고	외야수	시애틀	2000	137만	2001 롯데 1차
21	채태인	부산상고	★투수	보스턴	2000	80만	2001 두산 2차 10-77
22	안병학	원광대	★투수	보스턴	2001	95만	99 해태 2차 4-28
23	이승학	단국대	★투수	필라델피아	2001	115만	98 롯데 2차우선
24	김일엽	단국대	★투수	필라델피아	2001	65만	98 삼성 2차우선
25	류지국	덕수정보고	★투수	시카고컵스	2001	160만	미지명
26	유병묵	—	★투수	보스턴	2002	—	
27	정성기	동의대	★투수	애틀란타	2002.6	24만	미지명
28	구대성	오릭스	★투수	뉴욕메츠	2005.1	연봉80만	

2005-2012(8年間)

순번	選手名	学校名	位置	契約球団	契約年度	契約金($)	国内指名
29	최향남	—	★투수	콜리블랜드	2005.11	10만	
30	남윤희	신일고	★투수	텍사스	2006.5	6만5천	2006 두산 1차
31	정영일	진흥고	★투수	LA에인절스	2006.7	100만	2007 KIA 1차
32	손 억	—	★투수	볼티모어	2006.11	—	
33	이시몬	인하대	★투수	시카고컵스	2006.12	5천	LG 지명권 말소
34	이대은	신일고	★투수	시카고컵스	2007.6	81만	미지명
35	김경덕	—	외야수	템파베이	2007.4	7만5천	
36	정재원	서울고	포수	미네소타	2007	—	미지명
37	최현묵	군산상고	외야수	미네소타	2007.8	—	미지명
38	최형묵	군산상고	내야수	미네소타	2007.8	—	미지명
39	이희주	충암고	내야수	시카고컵스	2008.3	115만	미지명
40	강인균	배명고	포수	미네소타	2008.7	10만	미지명
41	하재훈	용마고	외야수	시카고컵스	2008.7	10만	미지명
42	정수민	부산고	★투수	시카고컵스	2008.7	51만	미지명
43	안태검	부산고	★투수	텍사스	2008.8	80만	미지명
44	김재윤	휘문고	포수	애리조나	2008.10	15만	미지명
45	최향남	롯데	★투수	세인트루이스	2009.2	월봉7천5백	
46	신진호	화순고	포수	캔자스시티	2009.3	60만	미지명
47	김동엽	천안북일고	외야수	시카고컵스	2009.3	55만	미지명
48	최지만	동산고	포수	시애틀	2009.3	42만5천	미지명
49	김선기	세광고	★투수	시애틀	2009.4	43만	미지명
50	이지모	—	★투수	LA다저스	2009.5	—	2005 롯데 2차 5-33(이중계)
51	남대혁	제물포고	내야수	LA다저스	2009.6	50만	미지명
52	문찬종	충암고	내야수	휴스턴	2009.8	35만	미지명
53	나경민	덕수고	외야수	시카고컵스	2009.8	72만5천	미지명
54	김진영	덕수고	★투수	시카고컵스	2010.2	120만	미지명
55	김성민	야탑고	포수	오클랜드	2011.3	51만	미지명

ドラ1 最高1A

4年経過 最高2A

全国大会 優勝投手

パク・チャンホ

ボン・ジュングン

ソ・ジェウン

キム・ソンウ

チョ・ジンホ

ペク・チャスン

チェ・フィソプ

キム・ビョンヒョン

サムソン・リー

チュ・シンス

リュ・ジェグク

ク・デソン

黄色帯：メジャーリーグでプレーしたことがある選手

赤色帯：韓国、日本のプロを経てメジャー入りした選手

○…高校卒業後、アメリカ進出した選手

★…投手

□…高卒メジャー選手

（2）－4. 韓国人メジャー選手（12名）のうち、高卒⇒メジャー選手（4名）の成績

NO.5 奉重根 （ボン・ジュングン） 契約年：1997年（高校2年） 球団：ブレーブス 契約金120万ドル

年度（年齢）	年数	チーム	防御率	試合数	勝	負	セーブ	投球回数
2002（22）	5年目	ブレーブス	7.50	1	0	1	0	6
2003（23）	6年目	ブレーブス	5.05	44	6	2	1	57
2004（24）	7年目	レッズ	4.70	3	1	1	0	15 1/3
メジャー通算			5.17	48	7	4	1	78 1/3

NO.11 白嗄承 （ペク・チャスン） 契約年：1998年 球団：マリナーズ 契約金129万ドル

年度（年齢）	年数	チーム	防御率	試合数	勝	負	セーブ	投球回数
2004（24）	6年目	マリナーズ	5.52	7	2	4	0	31
2006（26）	7年目	マリナーズ	3.67	6	4	1	0	34 1/3
2007（27）	8年目	マリナーズ	5.15	14	4	3	0	73 1/3
2008（28）	9年目	マリナーズ/パドレス	4.79	32	6	10	0	141
メジャー通算			4.83	59	16	18	0	279 2/3

NO.20 秋信守 （チェ・シンス） 契約年：2000年 球団：マリナーズ 契約金137万ドル （1次指名入団拒否）

年度（年齢）	年数	チーム	打率	試合数	安打	本塁打	打点	盗塁
2005（23）	5年目	マリナーズ	.056	10	1	0	1	0
2006（24）	6年目	マリナーズ/インディアン	.280	49	44	3	22	5
2007（25）	7年目	インディアンズ	.294	6	5	0	5	0
2008（26）	8年目	インディアンズ	.309	94	98	14	66	4
2009（27）	9年目	インディアンズ	.300	156	175	20	86	21
2010（28）	10年目	インディアンズ	.300	144	165	22	90	22
2011（29）	11年目	インディアンズ	.259	85	81	8	36	12
2012（30）	12年目	インディアンズ	.283	155	169	16	67	21
メジャー通算			.289	699	738	83	373	85

NO.25 柳済国 （リュ・ジェグク） 契約年：2001年 球団：カブス 契約金160万ドル

年度（年齢）	年数	チーム	防御率	試合数	勝	負	セーブ	投球回数
2006（23）	6年目	カブス	8.40	10	0	1	0	15
2007（24）	7年目	デビルレイズ	7.33	17	1	2	0	23 1/3
2008（25）	8年目	デビルレイズ	0.00	1	0	0	0	1 1/3
メジャー通算			7.49	28	1	3	0	39 2/3

●メジャーデビューは全員5．6年目 ●約20年間で高卒成功者は野手のみ

（2）－5. 韓国野球 メジャー選手のキャリア一覧

別紙3. 参照

□ 早期渡米でメジャー昇格した選手は全員で10名。すべてKBO実績なし。
→ 今回の参考に適当。

□ MLB活躍「◎」選手は3名いるが、活躍期間は決して長くない。または、野手である。

□ 2012年オフ、柳賢振（25歳 投手）がポスティングでKBO⇒MLB挑戦。
韓国球界も渡米方法の見直し傾向。
→同期に、2006年KBO1位指名拒否後渡米した南
（25歳 投手 最高1A 2012年ファイターズ春季テスト不合格）

□ 大谷選手が高卒メジャーで活躍しても日本国内では「初」だが、
世界（アジア）から見れば決して初めてのことではない。

日本野球での高い実績が、
「MLBトップの実力」「長期活躍」に影響しているといえる

（2）－6. 日本野球 アマチュア⇒MLB挑戦者一覧

別紙4. 参照

□ 能力差があるとはいえ、野球以外の要因も大いに考えられる

NPB （選手を引き上げる仕組み）	MLB （選手を淘汰する仕組み）
・ハングリー精神	・食事
・自主性	・多国籍な慣習
・コーチ、トレーナー環境	・交友関係
・練習施設	・社会性の向上
・コミュニケーション	・ストレス解消 ほか

（2）－7　日本・韓国野球　メジャーにおける活躍状況まとめ

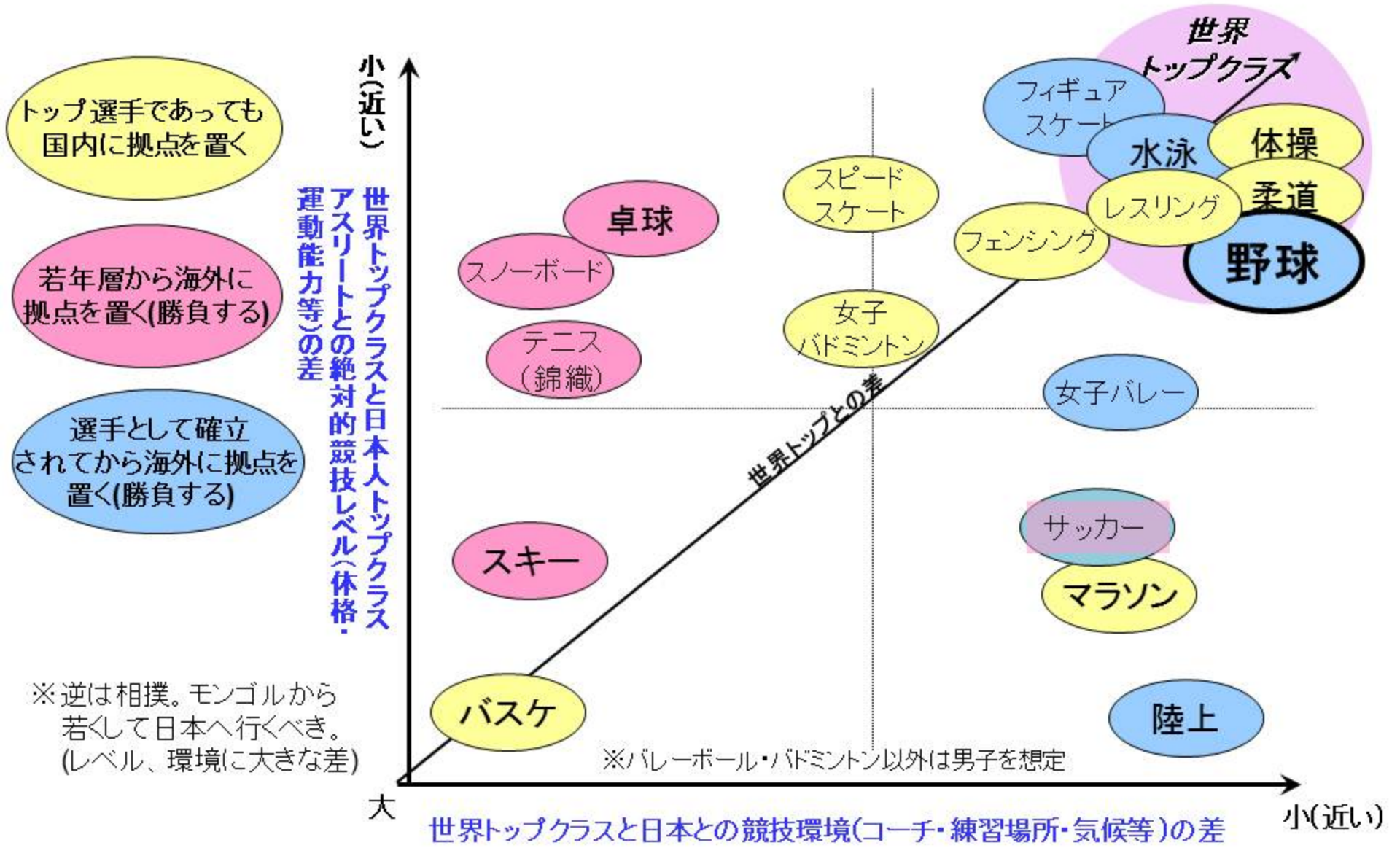
	MLB挑戦者		MLB活躍			%
	国内プロ実績あり	国内プロ実績なし	△以下	○	◎	（○＋◎）÷挑戦者全員
韓国（1994～）	7人	48人	50人	2人	3人	9．1%
日本（1995～）	42人	60人※	44人くらい	20人	9人	39．7%

（日本）国内実績ありMLB活躍選手 ＝ （日本）MLB活躍 29人（○＋◎） ／ （日本）国内実績あり 42人（○＋◎） ＝ 69．0%（◎のみ21．4%）

（日韓）国内実績なしMLB活躍選手 ＝ （韓国）MLB活躍5人＋（日本）マック鈴木1人 ／ （韓国）国内実績なし48人＋（日本）国内実績なし60人 ＝ 5．6%

※MLB傘下の球団と契約したが公式戦出場なく退団した選手や、契約後にビザ取得できず渡米できなかった選手など、一部未確認の選手を含む

（3）-1 競技別海外進出傾向の違い



（3）－2. 競技別海外進出の傾向

1）国内に拠点を置く競技（黄）

- 国内の競技力や競技環境が高いため、国内を拠点に選んでいる
  （世界の壁が高いバスケを除く）

2）若年層から海外に拠点を置く競技（赤）

- （卓球・テニス）：海外の競技力、コーチや練習場などを含む競技環境の高さから拠点を選んでいる
- （ウィンタースポーツ）：競技力よりも、練習環境という物理的な競技環境や大会の賞金やスポンサー収入といった金銭面に大きく左右されて拠点を選んでいる

3）選手として確立されてから海外に拠点を置く競技（青）

- 日本の方が育成システムなどの競技環境は優れているが、海外の方が競技力や年俸が高いため、国内のトップ環境を経たのちに海外を拠点に選んでいる

（3）－2. 競技別海外進出の傾向（指標）

競 技 力

－国内トップレベル選手の**世界における強さ**
（オリンピック・世界選手権・世界ランク・国内リーグの強さ等を相対的に評価）

競技環境

－トップレベルの素材・潜在能力を持つ日本人選手が**競技力を向上させるための環境**
（競技場所・練習場所・大会数・指導者・科学/医療サポート等を相対的に評価）

生活環境

－日本人選手にとっての**生活しやすさ**
（国内の生活レベル・言葉の壁がもたらす悪影響の度合い等を相対的に評価）

年　俸

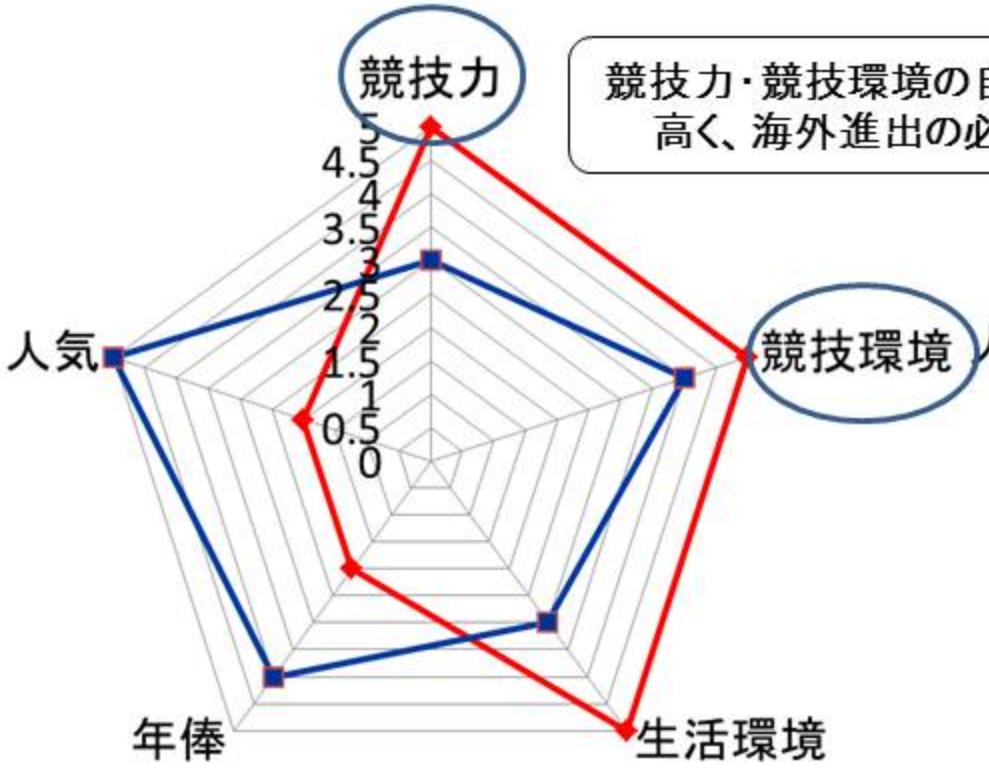
－その国におけるリーグや大会での活躍によって**獲得できる金額**
（チーム・所属からの給料やスポンサーからの援助、賞金等を相対的に評価）

人　気

－その国におけるトップレベル選手の**人気**
（会場に訪れるファンの多さや知名度等を相対的に評価）

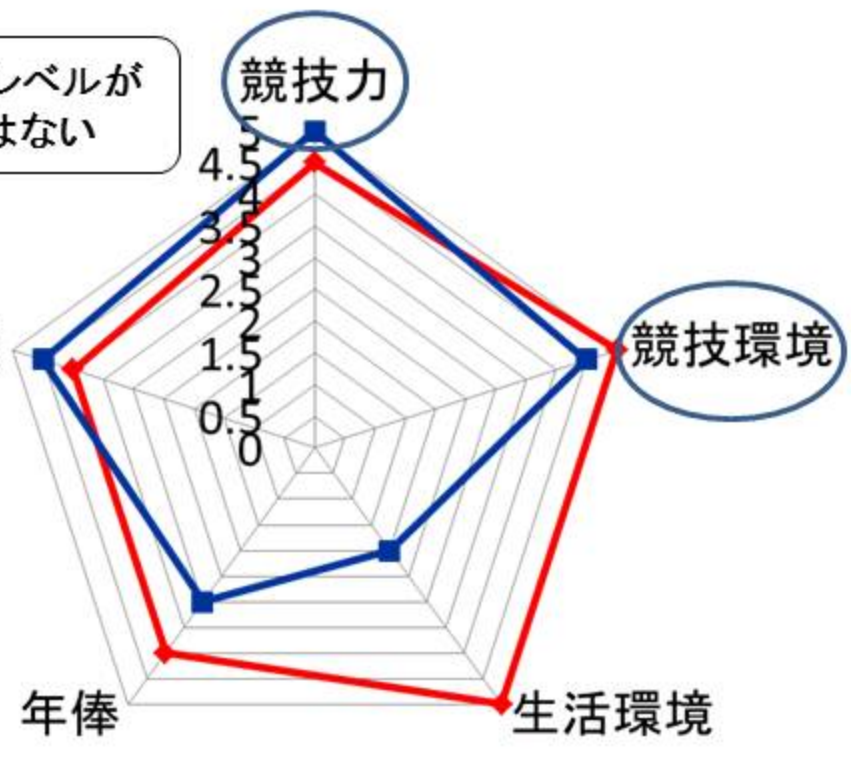
①日本＞海外　(若年進出不要例)

【柔道】(男子)
＜フランス対比＞



競技力・競技環境の自国レベルが
高く、海外進出の必要はない

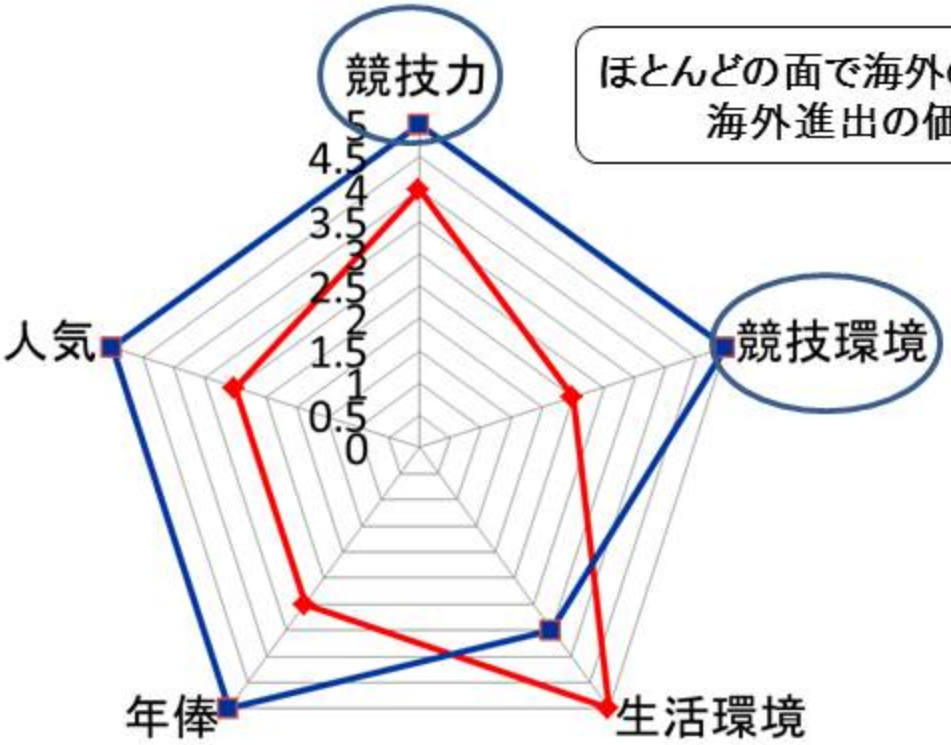
【体操】(男子)
＜中国対比＞



※赤が日本国内、青は海外拠点を示す

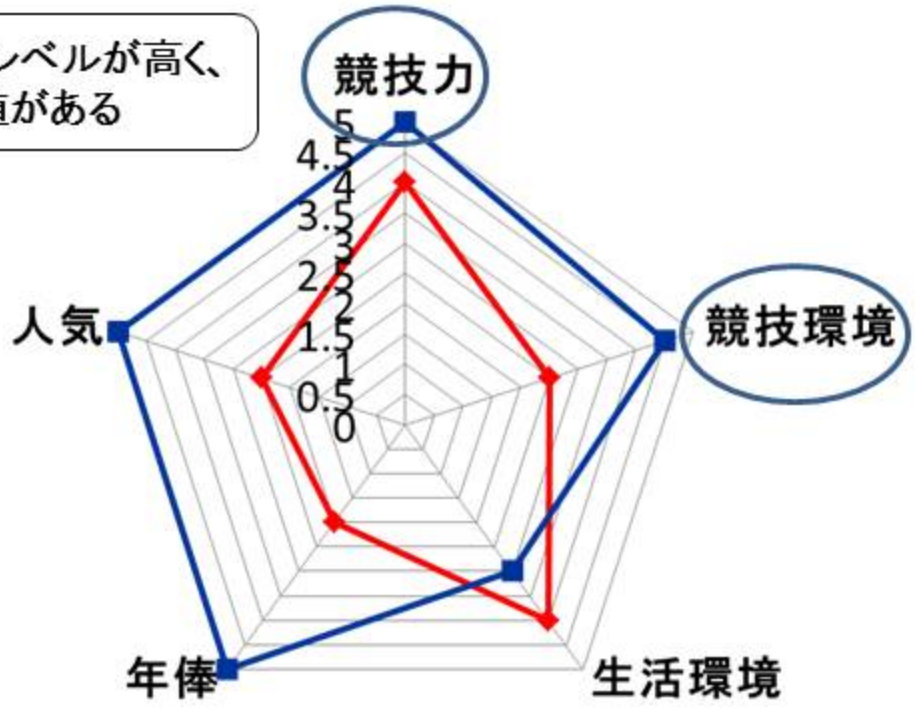
②日本＜海外　(若年進出成功例)

【卓球】(男子)
＜ドイツ(ブンデスリーガ)対比＞



ほとんどの面で海外のレベルが高く、
海外進出の価値がある

【スノーボード】(男子)
＜アメリカ対比＞

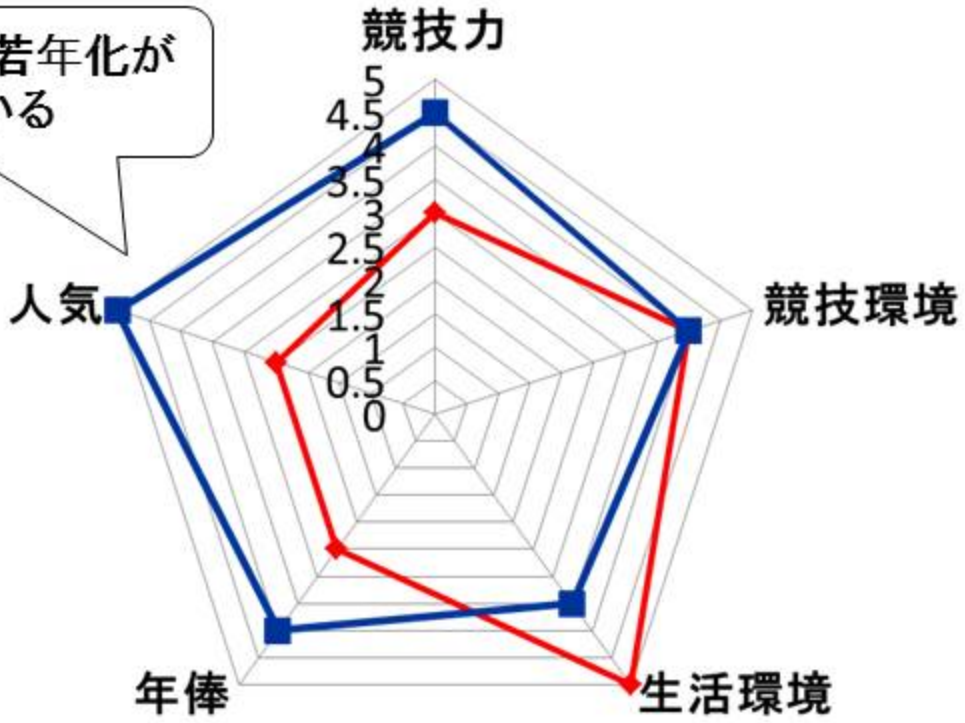


※赤が日本国内、青は海外拠点を示す

③日本＜海外　(若年進出始まる)

【サッカー】(男子)
＜ドイツ(ブンデスリーガ)対比＞

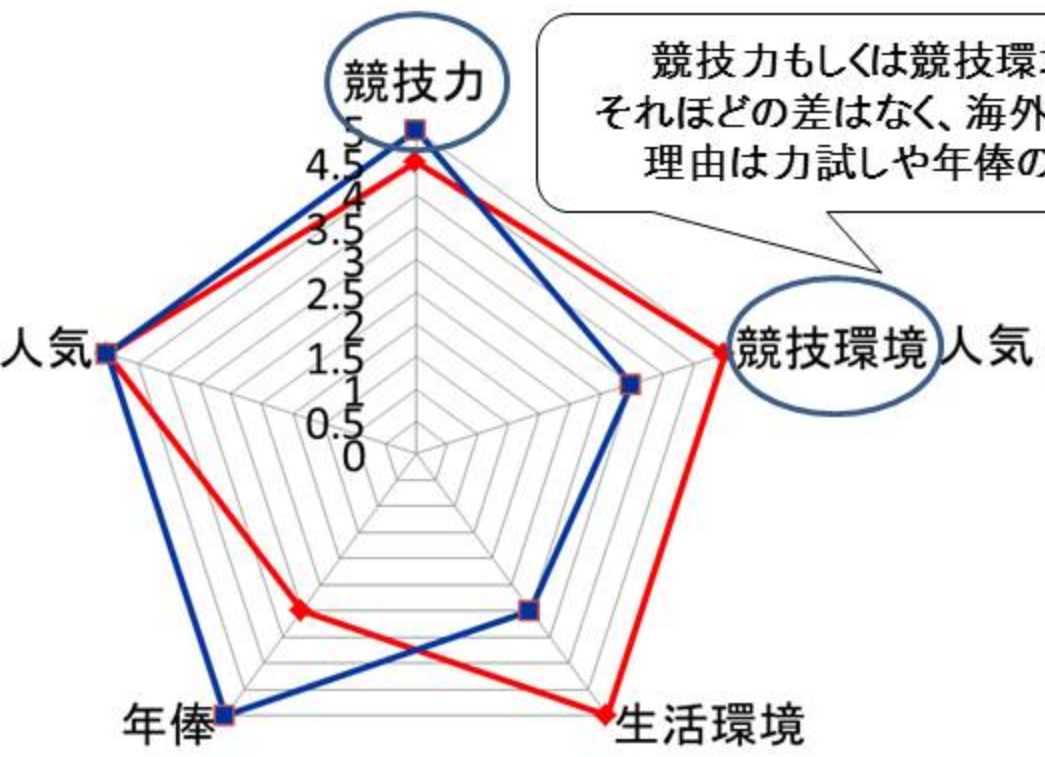
競技者ピークの若年化が
加速している



※赤が日本国内、青は海外拠点を示す

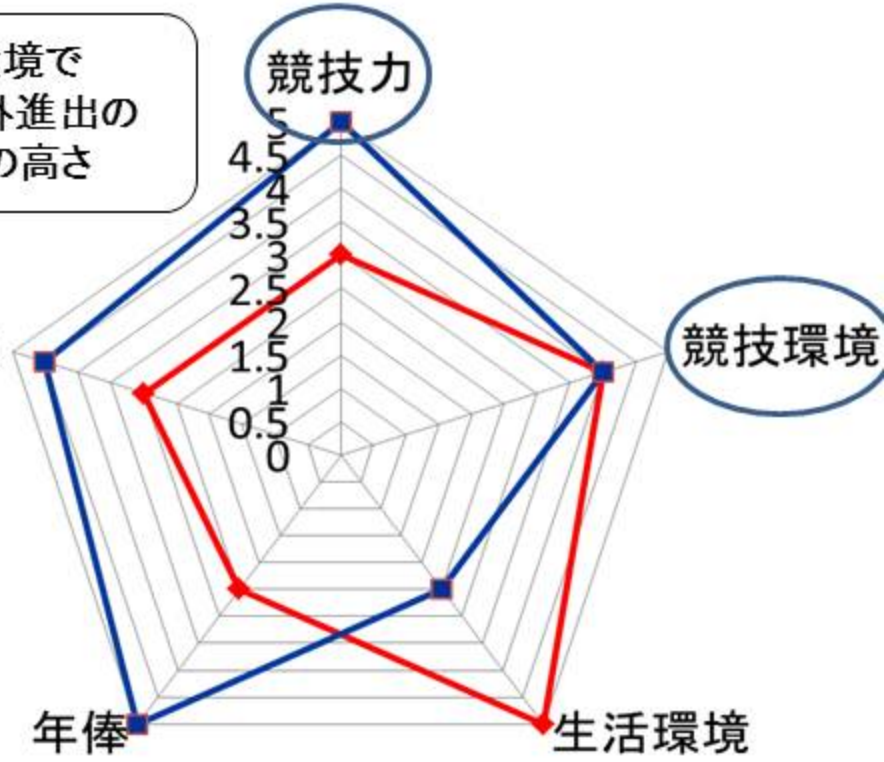
④日本≦海外　(実力定着後進出例)

【野球】(男子)
＜MLB対比＞



競技力もしくは競技環境で
それほどの差はなく、海外進出の
理由は力試しや年俸の高さ

【バレーボール】(女子)
＜トルコリーグ対比＞



※赤が**日本国内**、青は**海外拠点**を示す

（3）－3. 若年期海外進出が向いている競技

卓　球

水谷隼(23)　世界卓球大会個人、ダブルス、団体各3位(世界最高ランク5位)
←16歳で1年間のドイツ留学

岸川聖也(25)　世界卓球大会ダブルス、団体、ミックス各3位(世界最高ランク17位)
←19歳からドイツのプロリーグへ

福原愛(24)　世界卓球大会団体、ミックス各3位、ロンドン五輪団体銀メダル(世界最高ランク6位)
←16歳から中国リーグを転戦

松下浩二さん(日本人初のプロプレーヤー、ブンデスリーガプレーヤー)へのヒアリング

＜若年期海外進出の理由＞
1）若年期に海外進出することで、競技レベルの高い選手に囲まれ、自然と競技力が上がる
2）コーチのレベルが圧倒的に海外のほうが上
3）練習できる環境が段違い（卓球は練習量の多さと成長が比例する競技）
4）海外進出資金のサポートを得やすい（卓球協会、民間企業）

＊身体能力差が少なく、外国人と同じスタイルで強くなれる

（3）－4．若年期海外進出理由の競技別適性

	卓球	柔道	野球	＊モンゴル相撲
①海外の競技レベルの高い選手に囲まれ自然と成長	○	×	△ 日本以下もある	○
②海外コーチのほうが圧倒的に良い	○	×	× 育成知識豊富	○
③海外のほうが練習する環境が充実	○	×	× 物理的な差はない	○
④海外に出るための資金援助がある	○ 協会が支援	×	×	○ 高校／企業 相撲部屋預かり
若年期海外進出適性	○	×	×	○ 日本進出しかない

若年期海外進出の効果は競技ごとに差がある。
野球は国内育成環境高く、そもそもその必要性に乏しい。

（4）－1. 日本サッカー　海外移籍組のキャリア一覧

別紙5. 参照

□ 「海外活躍選手◎」は、国内実績が必ずあり、
決して早い時期に海外に出ていない。
→ 一度トップレベルに上がると安定して活躍している

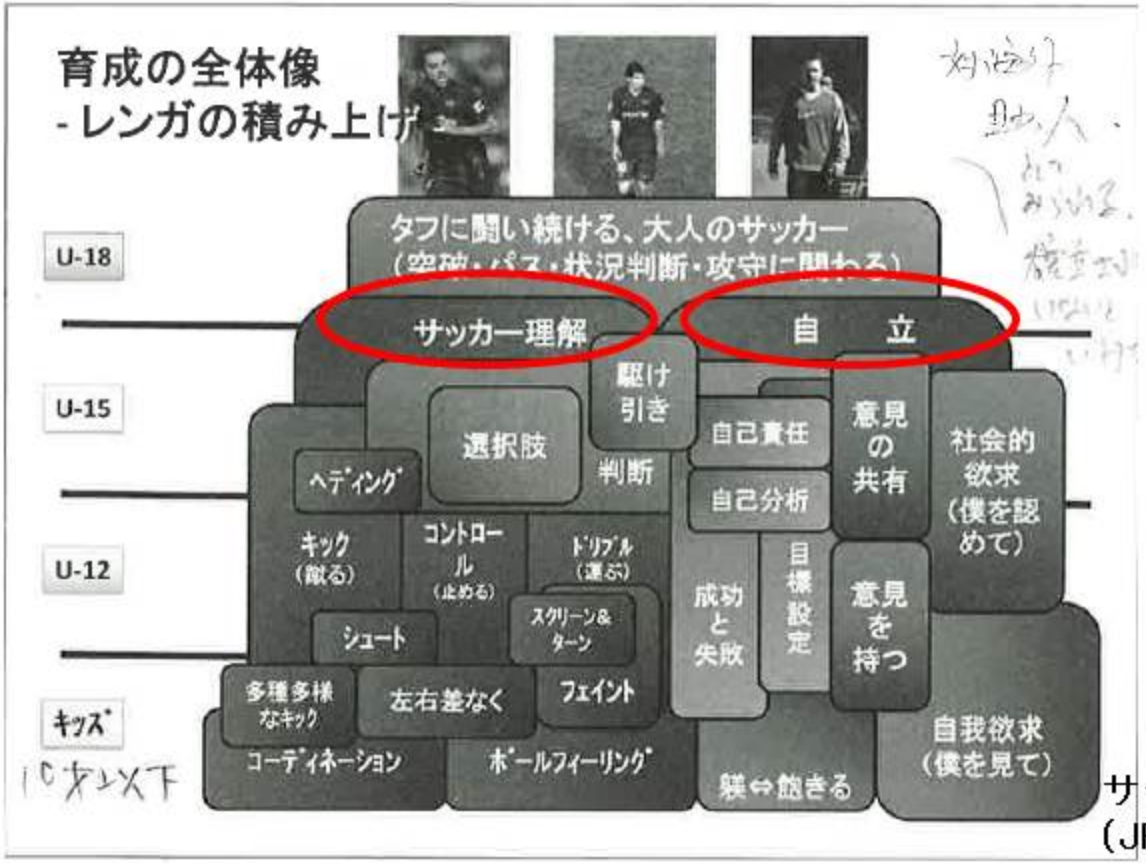
□ 16歳～20歳の早期海外進出が、
「トップの実力」「長期の活躍」に結びつくか不明。
→ 一方で、「早期海外、早期帰国選手」は確実に増加中

身体能力差の影響が大きい野球、サッカーでは、
①『国内で確実な力』をつけてから、
②『日本スタイル（Japan's Way）』で勝負
（若年から、身体能力中心の世界で生き残るのは困難）

（4）－2. 日本人らしい育成項目

①『国内で確実な力』をつけてからとは、

【競技技術の確立】　　**【人としての自立】**



サッカー指導教本2012
（JFA公認D級コーチP.32より）

日本人には世界と勝負するまでにすべき準備がある

（4）－3. 『Global（世界の）』でなく、『International（多国間の）』で戦う

②『日本スタイル（Japan's Way）』で勝負、とは



サッカー指導教本2012
（JFA公認D級コーチP.16より）

国内で実績を上げる中で、日本スタイルの、
世界に通用する戦い方を身につける

（イチローは、18歳から渡米してもイチローになれただろうか？）

結　論

① 早期渡米と『長期活躍』は今のところ結びつきが確認できず、むしろ、
NPB実績をあげるなかで『野球技術の確立』『人としての自立』を
身につけることが、『MLB即戦力』『長期活躍』の可能性を高めている

② 若年期海外進出の効果は、競技ごとに違う。
日本野球においては、指導力を含む育成環境が世界トップレベルにあり、
早くから海外進出する必要性に乏しい

③ 世界で戦うためには、身体能力を競うやりかたではなく、
ストロングポイントとして日本人らしい技術や戦術を会得し、
それを発揮することが賢明である

最後に

大谷選手の希望	NPB	MLB
①MLBトップの実力をつけたい	△ FA取得までの拘束期間	△ メジャー昇格に 一定期間必要・確率低い
②トップで長く活躍したい	△ FA取得までの拘束期間	△ マイナーリーグからの 確率は低い
③パイオニアになりたい	―	△ あえて苦難に挑む パイオニア

「ファイターズの選手育成体制」については別冊にてご説明

資料作成にあたり、ご協力頂いた方々（掲載許可を頂いた方のみ）

※この頁は12月11日に追加しました

(五十音順)

- 秋月　透馬 さん　スポーツ雑誌サッカー担当編集
- 荒谷　　潤　さん　日本サッカー協会技術部(サッカー指導教本提供)
- 岡本　英男 さん　元日本代表クロスカントリースキーヘッドコーチ
- 奥野　僚右 さん　Jリーグ・モンテディオ山形監督
- 坂井　利彰 さん　慶應義塾大学専任講師・体育会テニス部監督
- 佐藤　峻一 さん　日本陸上競技連盟
- 佐藤　　満 さん　日本レスリング協会男子強化委員長・専修大学教授／医学博士
- 島田　一志 さん　金沢星陵大学人間科学部准教授
- 高木　麻人 さん　スポーツ雑誌サッカー担当編集
- 瀧本　　誠 さん　世田谷区スポーツ振興財団世田谷ジュニアアカデミー「柔道アカデミー」
- 林　晋太郎 さん　前JFAアカデミー福島選手管理
- 松下　浩二 さん　ヤマト卓球株式会社代表取締役社長
- 室井　昌也 さん　ストライク・ゾーン社長（韓国プロ野球の伝え手）

その他、多くの方々にご協力頂きました。